

## ◎実現方策に係る市町の意見

スライド	意見	県の見解
P49 P58	持続の実現方策に「広域的な連携（P65・66 関係）」を入れた方が良いのでは。	「広域化」については持続のみならず、複数の実現方策の手法の一つとして考えうるものですので、そのような観点で資料を修正しています。
P49 P54 P55 P56	強靱の実現方策の「ダウンサイジング等施設規模の適正化」を持続の実現方策へ入れた方が良いのでは。	施設規模の適正化については、施設更新と密接にかかわる内容であると考え、項目をまとめています。 なお、ご意見を踏まえ、持続の実現方策の要素もあることが分かる形で資料修正しています。
P51	水安全計画は、県内「8 事業体」で策定済（未策定「11 事業体」）であり、「水安全計画策定ガイドライン」（H20.5 厚生労働省）においても、運用後の「妥当性の確認と実施状況の検証」、「レビュー」（改善）の必要性が示されています。 よって、実現方策は「策定」のみではなく、「策定及び適切な運用」など、策定後の運用管理に着目した方策にしてはいかがでしょうか。	ご意見を踏まえ、運用面に着目するような表現にしています。
P52	鉛製給水管の残存率については、西部圏域が突出して高いなど、地域格差があります。 また、解消については、健康被害の恐れから、平成 19 年 12 月の水道課長通知において「布設替計画の策定と取り組み」及び住民への「広報活動」が周知されています。 厚生労働省の通知から 10 年以上が経過し、取り組みがある程度進んだ状況などを鑑みて、県ビジョンの実現方策として「鉛製給水管の解消」を掲げるにあたり、各事業体における解消状況及び布設替計画などを踏まえて、改めて実現方策として選定すべきかどうかの適否を検討する必要があると思います。	全県的に見た場合の観点で実現方策を選定しています。
P57	山口県らしいものにしたほうが良いのでは。 ・災害時の相互応援体制（先般の周防大島町の断水で経験したことを生かした内容等） ・「各自治体間での連絡管等の整備」の項目を増やしてもいいのでは。	ご意見を踏まえ、相互応援体制や連絡管整備に関する観点を盛り込みました。

スライド	意見	県の見解
P57	<p>応急給水対策に係る広域的連携を踏まえた応援体制（資機材調達・応急給水・応急復旧）について、触れてはいかがでしょうか。</p> <p>また、施設整備の長期構想において、緊急時の相互連絡管や施設の共同化によるバックアップ機能の構築などを見据えた連携を図るなど「広域的連携」に踏み込んだ実現方策が必要かと思えます。</p>	<p>ご意見を踏まえ、相互応援体制や連絡管整備に関する観点を盛り込みました。</p>
P60	<p>水道施設台帳の整備は、令和4年10月までに全ての事業体で整備されるため、令和12年度までの「県ビジョン」の中では早期に達成します。</p> <p>中長期的な「水道施設台帳」の用途としては、水道CPSなどによるIoT技術への応用、延いては広域的連携や官民連携へのデータ活用が見込まれるため、その動向に着目した方策を追記してはいかがでしょうか。</p> <p>また、国の補助制度は「広域化の実現」が要件となっているものが多く、活用にあたり広域化との関連性を整理すべきかと思えます。</p>	<p>水道施設台帳の整備は改正水道法にも盛り込まれた義務規定であり、まずは早期の全県的な整備を目指すものとして今回の方策に盛り込んでいます。</p>
P61	<p>「経営戦略策定ガイドライン」（H28.1総務省）において、3～5年ごとに計画の事後検証と見直しを行うこととされており、また、見直し時点において、更に10年以上の見直しを行うことが望ましいとされています。</p> <p>料金収入の減少などの要因から、策定済の事業体においても、定期的な見直しは必要であることから、経営の安定化に関する重要な要素として、PDCAを掲げてはいかがでしょうか。</p>	<p>ご意見の趣旨が「県水道ビジョンとしてのPDCA」であるとすれば、次回の作業部会で検討課題とする予定の「フォローアップ」に含まれる項目であると考え、今回は従前の表現のままとしています。</p>
P66	<p>「広域化に向けた取り組み」について、「現状分析」や「課題」「実現方策」といった検討内容の記載はないのでしょうか。</p>	<p>「広域化に向けた取り組み」については、複数の実現方策の手法の一つとして考えるものですので、そのような観点で資料を修正しています。</p>
他	<p>「現状分析」は圏域別を実施しているが、「実現方策」は圏域別にしていないのはなぜでしょうか。</p>	<p>圏域別の現状分析の結果、抽出された課題点について（多少の程度の差はあるものの）圏域間で傾向の大きな差が認められなかったため、全県での実現方策として取りまとめたところです。</p>

スライド	意見	県の見解
他	<p>「実現方策」に係る目指すべき方向性について、取り組みを「推進する」や「促進する」という文言がありますが、県としては、どのような具体的内容で推進や促進をしようとしているのでしょうか。</p>	<p>県としては、補助金の活用促進や、取り組むべき課題の対応状況の調査を通じて課題解決に向けた取り組みを推進・促進することと考えています。</p> <p>また、各水道事業体の様々な課題に応じた広域連携を進める必要があることから、検討の場を設ける必要があると考えています。</p>
他	<p>県は、当該計画の策定を通じて、各事業者（市町）へどのように関与しようとし、どのようなリーダーシップを発揮しようとしているのでしょうか。</p>	<p>県としては、補助金の活用促進や、取り組むべき課題の対応状況の調査を通じて課題解決に向けた取り組みを推進・促進することと考えています。</p> <p>また、各水道事業体の様々な課題に応じた広域連携を進める必要があることから、検討の場を設ける必要があると考えています。</p>
他	<p>山口県水道ビジョンが公表された場合、各市町が新たに取組まなければならないことはあるのか？また、ビジョンに記載された実現方策について、各市町において具体的にどのような取り組みを行うのか、進捗状況の管理、数値目標の設定、取り組みの成果などについて、整理する必要があるのか？</p>	<p>今回策定する県水道ビジョンは水道事業の「理想像」を示すものと位置付けており、現時点で数値目標を設定することは検討していませんが、示された各課題については各事業者に対して解決を期待するものです。</p>
他	<p>山口県水道ビジョンでは、県が助言や調整を行うことで事業者間の広域連携を支援するという記載があるが、本ビジョンで設定された山口県内の3圏域ごとに、今後、定期的な協議の場や情報交換の場を県が主体となって設定していく予定はあるのか？</p>	<p>今後、水道事業をとりまく環境が厳しくなるため、基盤強化が必要であり、各水道事業体の様々な課題に応じた広域連携を進める必要があることから、検討の場が必要と考えます。</p>